

2010年5月12日

## バンテック、2010年3月期連結決算発表

— 前期比減収も合理化努力で大幅増益、2011年3月期は増収増益予想 —

株式会社バンテック(本社:川崎市、社長:山田 敏晴)は12日、2010年3月期連結決算を発表した。2010年3月期実績の概況及び2011年3月期見通しは以下のとおり。

### (1) 2010年3月期実績＝前期比減収増益

前期に比べ輸送量が減少し売上高は前期比19%減収だったが、合理化努力により営業利益はほぼ倍増。経常利益は同85.6%増、当期純利益は同6倍強となるなど増益に転じた〈表1〉

### (2) 2011年3月期見通し＝前期比増収増益

新興国における自動車部品物流や国内における食品物流の営業拡大の取り組みなどにより、売上高は二ケタ増の見通し。合理化努力を継続し、利益も二ケタ増と、増収増益の見通し〈表2〉

### <2010年3月期連結決算>

前期後半から激減していた主要顧客の自動車生産・輸出船積台数、航空貨物の輸送量は回復基調に転じたものの、通期では前期の輸送量にはとどかず売上高は前期比で約2割の減収。一方、利益面では期初に打ち出した経営合理化策がほぼ計画どおりに進捗。営業拡大や業務効率の向上努力とともに、徹底した変動費、固定費の合理化を進めた結果、大幅な増益を達成した。営業利益はほぼ倍増し、売上高営業利益率は3.7%と前期に比べ2.2ポイント改善。事業の種類別セグメントの営業利益は、国内物流が2,056百万円(前期比214.2%増)、国際物流が2,036百万円(同44.7%増)、引越・重量物の運搬などのその他が130百万円(同199.6%増)と全ての事業セグメントで増益となった。

### <表1>2010年3月期決算と2009年3月期決算との比較

(単位:百万円 カッコ内は% 各期、予想の欄の営業利益、経常利益、当期純利益のカッコ内は対売上高比率、増減の欄は増減率)

連結決算	2010年3月期 (a)	予想 (2010年2月5日)	2009年3月期 (b)	増減 (a)-(b)
売上高	113,601	112,000	140,263	(△19.0) △26,662
営業利益	(3.7) 4,225	(3.6) 4,000	(1.5) 2,104	(100.8) 2,121
経常利益	(4.0) 4,522	(3.6) 4,000	(1.7) 2,436	(85.6) 2,086
当期純利益	(2.2) 2,488	(1.8) 2,000	(0.3) 362	(585.9) 2,126

### <2011年3月期の連結業績予想>

国内貨物の荷動きにはなお力強さが欠けると見られるが、海外では中国やタイなど新興国を中心とした自動車部品物流の需要は堅調と予想される。今期は、自動車部品物流を中心に海外における事業強化を図る一方、国内においては需要が底堅い食品関連の市場を積極的に開拓する方針。これらの営業拡大策による売上高の伸びに加え、合理化努力を継続し、2期連続して前期比二ケタの増益を見込む。通期の売上高営業利益率は4.8%と、前期に比べ1.1ポイント改善する見通し。

### <表2>2011年3月期予想 (単位:百万円 カッコ内は前期(中間は前年同期)比増減率%)

連結決算	2011年3月期 第2四半期連結累計期間	2011年3月期 通期
売上高	(17.7) 61,000	(10.9) 126,000
営業利益	(164.3) 2,400	(42.0) 6,000
経常利益	(140.4) 2,400	(32.7) 6,000
当期純利益	(71.3) 1,300	(20.5) 3,000

以上